

花園大学
教育学部初等教育学科

教職履修カルテ

学生証番号	
フリガナ	
氏名	
在籍期間	年 4 月 入学 年 3 月 卒業（予定）

教職履修カルテについて

●「教職実践演習」と「教職履修カルテ」

「教職実践演習」は、教職課程履修の総括科目として4年次後期に必修科目として配置される。当該授業は教員養成段階で修得すべき教員として必要な知識技能・資質能力が、どのように獲得できたのかを確認し、補完するためのものである。

「教職履修カルテ」は、教職志望者自身によってなされる在学中の教職課程履修状況等の記録であり、「教職実践演習」において知識技能・資質能力を把握するための教材として用いられる。

「教職実践演習」の履修にあたっては、その履修前までに「教職履修カルテ」が完全に記入済みであることが前提となることから、各自で「教職履修カルテ」の該当ページを確認し、1年次から着実に必要な事項を記入するとともに、自己点検・自己評価をすること。また、必要に応じ本カルテを用いた教員による診断を行う。その結果を次の学びに役立てる工夫をすること。

●「教職実践演習」の概要

教職実践演習は、保育・教育者を目指して学んできた授業および実習の集大成である。これまでの学びの記録（教職ポートフォリオ、実習日誌等）や実習における体験により、自らの教育者としての資質や実践力を振り返る。さらに振り返りに基づくディスカッションをとおして、自己と参加者相互の理解を深めつつ、教育者としての課題とその解決方法を明確にする。

●「教職履修カルテ」の活用方法

主な活用目的は4年次後期に履修する「教職実践演習」受講時の教材であるが、1年次より各年次必要項目を忘れることなく記録し、必要に応じ教職課程担当教員により診断を受ける。

教職課程の履修計画にあたっては、各自が学修ガイドブック教職課程のページを熟読し、自己責任において履修すること。また、教職課程履修に必要なオリエンテーションの案内はポータルサイトにて行うので、注意しておくこと。

●「教職履修カルテ」の保管

教職履修カルテの様式は、次の場所に掲載している。

大学 HP の TOP→在学生の方へ→資格・実習→教職履修カルテ

ここに各ページを Word 形式にて掲載しているので、入力、印刷の上、ファイルに綴り保管すること。手書きも可。

Word に入力の結果、様式は1ページであるがページ内に収まらないことが考えられる。この場合、複数ページにわたっても差し支えない。また、1冊のファイルに収まらない場合は、分冊しても差し支えない。

記録に残すべき事項はもれなく綴ること。

希望する免許状・資格について

記入日 _____

取得希望免許状・資格

免許状・資格取得の動機

--

自己評価シート（総括）

(1) 教員に求められる資質・能力についての自己評価

評価項目		自己点検・自己評価			
大項目	中項目	1年次 終了時	2年次 終了時	3年次 終了時	4年次 終了時
I 教職論	1 教職の意義と役割を理解し、自己が目ざす教員像を明確に持っている	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	2 教職に対する使命感、責任感、意欲がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	3 教員としての自覚を持ち、自己抑制・倫理観を備えている	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	4 教職に必要な教養・法的知識等がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	5 教育・保育に必要な事務処理能力や機器の活用ができる	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
II 教育・保育の内容	6 目標とする学校種等における教育・保育の専門性、知識がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	7 子どもの発達段階、実態に即した教育・保育の研究ができる	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	8 教育・保育の研究に基づく指導計画や指導案づくりが適切にできる	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	9 基本的な指導技術を駆使し、柔軟な指導ができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	10 教育・保育の評価をもとに改善する力がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
III 学級や集団づくり	11 子どもと信頼関係をもって接することができる	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	12 学級や集団づくりの意義を理解し、経営案を生かした指導ができる	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	13 行事等の意義を理解した上で適切な指導ができる	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	14 発達の段階や特別な教育的支援に関する基本的な知識がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	15 子どもと意欲的に関わり、理解を深め、個に応じた適切な指導ができる	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
IV 組織・協働	16 組織の一員としての自覚と責任感がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	17 コミュニケーション力、対人関係能力がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	18 同僚・保護者と信頼関係を築き、協働する力がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	19 自己の考えを論理的に説明・説得する能力がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	20 学校・家庭・地域社会と連携し、貢献しようとする意欲がある	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

【評価基準について】

- 5：十分到達している（自分で問題解決できるレベル。自分で工夫したり意見を聞いたりしながら問題解決し、実践できる。）
4：到達している（ある程度一人できる。自分で課題をもって解決のために工夫したり、意見を聞いたりすることができる。）
3：ある程度到達している（指導助言により改善可能な程度。不安を持っているが、前向きに実践することができる。）
2：やや到達していない（指導助言がなければ実践が難しい。一人ですることに不安を持っている。）
1：到達が不十分（指導助言をされても容易にできない。問題意識を持ってはいるものの解決のための方策をもてない。実行出来ない。）

(2) 教職を目指す上で課題と考えている事項

	1年次	2年次	3年次	4年次
I 教職論				
II 教育・保育の内容				
III 学級や集団づくり				
IV 組織・協働				

(3年次)【取得を目指す免許・資格に関する授業における自己評価】

3年次の自己評価	教職に対する意識*	5	4	3	2	1
◆一年間の授業をふり返っての自己評価						
◆特に知識や技能について不足している点・4年次への課題						
記入日： 年 月 日						

*教職に対する意識は該当する数字に○をする。なお、5～1の評価段階は下記の通りとする。

5：高い意識で取り組めた 4：やや高い意識を持って取り組めた 3：意識を持って取り組めた
2：あまり意識をもてなかった 1：科目を履修しただけであった

(4年次)【取得を目指す免許・資格に関する授業における自己評価】

4年次の自己評価	教職に対する意識*	5	4	3	2	1
◆一年間の授業をふり返っての自己評価						
◆これからも身に付けていきたい資質・知識・技能・卒業後の抱負						
記入日： 年 月 日						

*教職に対する意識は該当する数字に○をする。なお、5～1の評価段階は下記の通りとする。

5：高い意識で取り組めた 4：やや高い意識を持って取り組めた 3：意識を持って取り組めた
2：あまり意識をもてなかった 1：科目を履修しただけであった

観察実習、教職体験活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教育実習等の記録

実習名		実習先	
実習期間	年 月 日～	年 月 日	(日間)
●実習記録を踏まえて総括してください			
◆活動内容			
◆学んだこと			

各自ダウンロードし、ページを増やすこと